

超スキ！宇宿で作るひとくち ～まち×ひと 交流の輪を広げよう～

チーム
えびすさま

竹原航太郎
脇田公子

○対象地域

鹿児島市

➡その中でも特に宇宿商店街地域



○宇宿商店街の強み

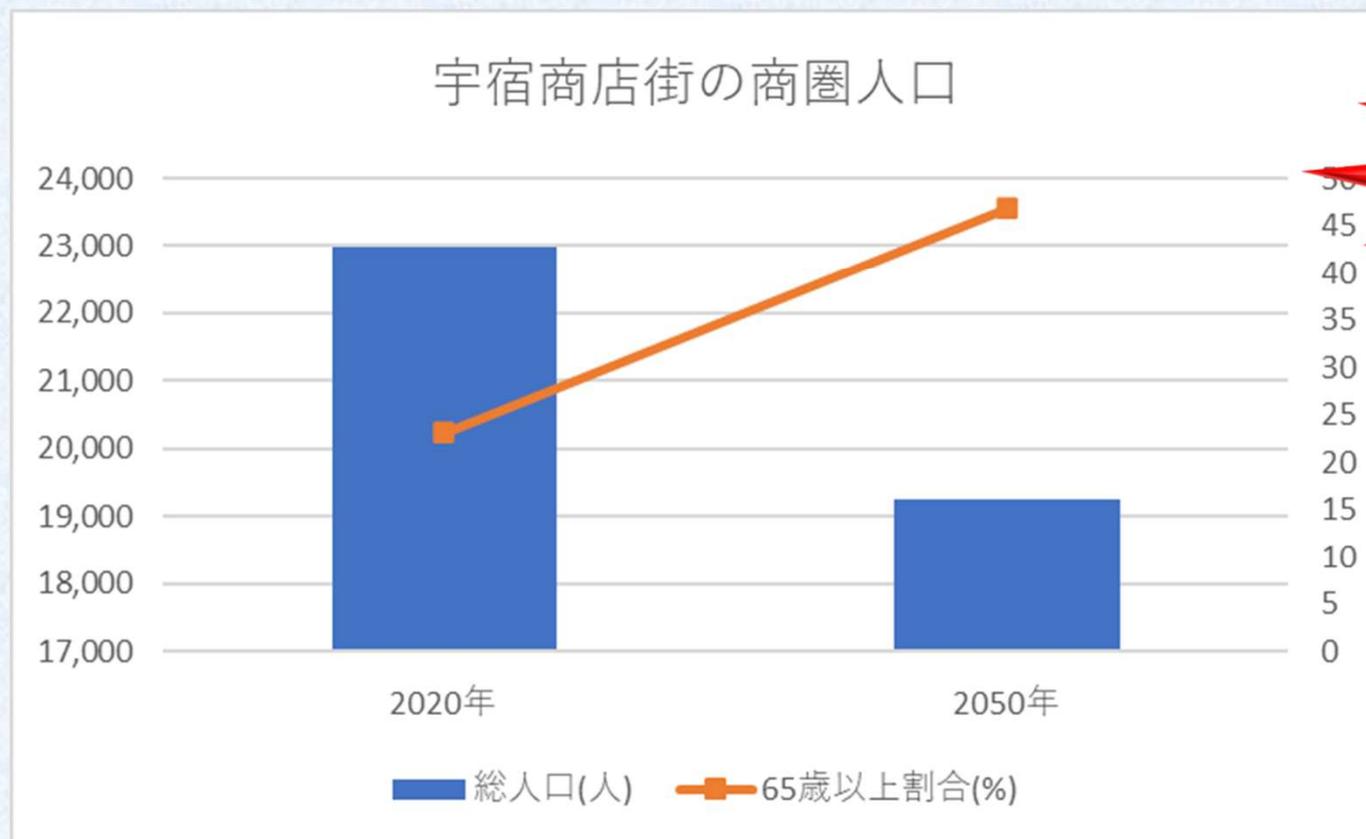
- ①交通の便が良い（JR、バス、市電等）
- ②既に様々な取り組みが行われている

一方で



- ・空きテナントはあるが、そこにお店を入れないオーナーがいる
- ➡貸し出す際に必要な施設の整備などのハードルが高い
- ➡設備面について文句を言われるなど、問題が起こるから

○地域の課題①-1 高齢者の増加

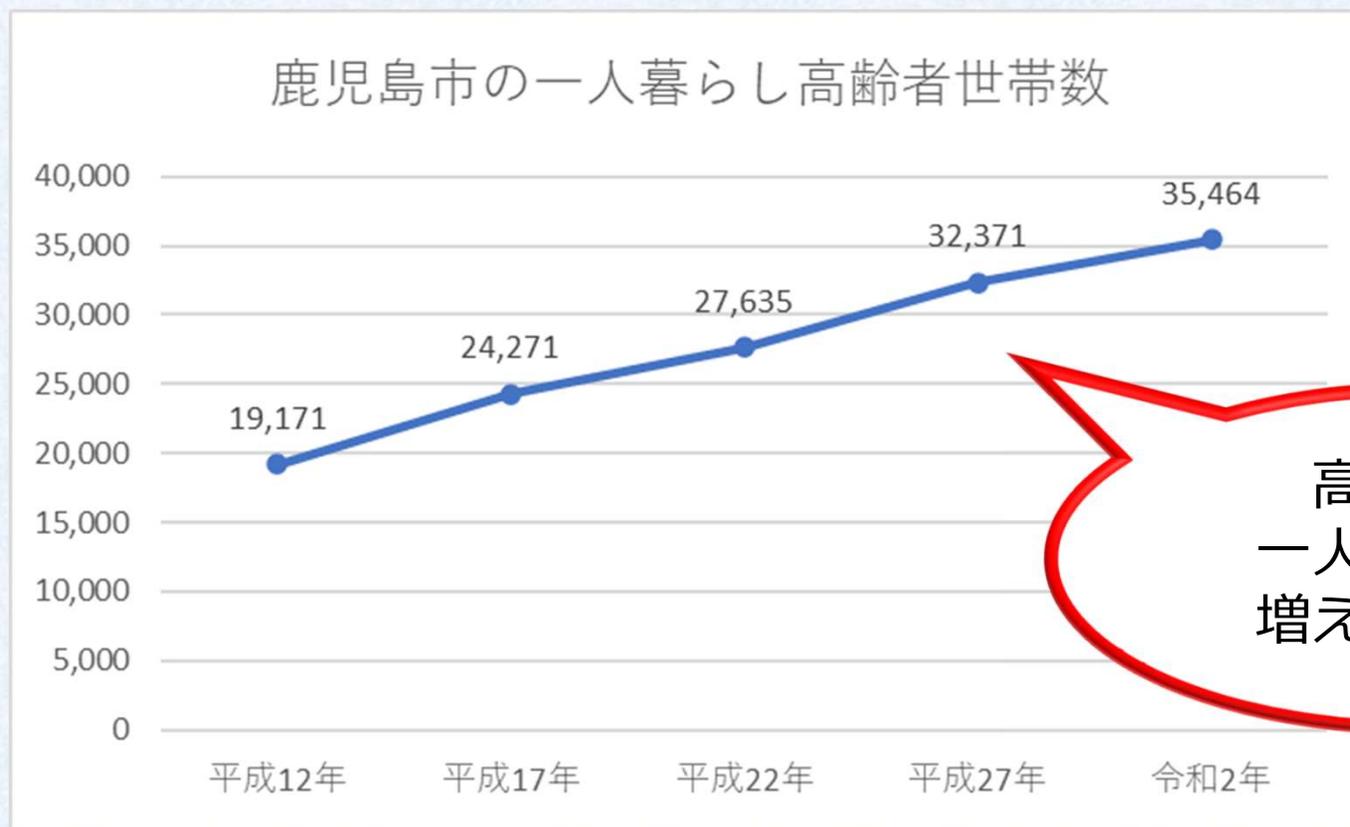


高齢者は増加傾向にある



出典：PDCA鹿児島宇宿書店街(R3年年度)

○地域の課題①-2 高齢者の孤立化



高齢者の
一人暮らしも
増えている！

出典：国勢調査

○地域の課題①-2 高齢者の孤立化

鹿児島市の高齢者等実態調査集計結果報告書(令和2年3月)によると…

社会活動に参加したことがない

→43.3%

一人暮らしの高齢者世帯への安否
確認や見守り活動の状況に対して、
わからない→42.5%

「地域の繋がりがあ
ると感じるか」

少し感じる→37.8%

あまり感じない→23.0%

**高齢者と地域の繋がりが希薄化し、
高齢者の孤立化が進んでいる！**

○地域の課題②-1 留学生の抱える問題

鹿児島市の留学生数



鹿児島市の留学生は
増加傾向にある



出典：鹿児島労働局

○地域の課題②-2 留学生の抱える問題

日本学生支援機構の令和元年度私費外国人留学生生活実態調査によると…

日本の大学等に通う留学生10,000人に対するアンケート
における留学後の苦勞について（複数回答可）

日常生活における母国の
習慣との違い
→2,503人

日本語の習得
→2,149人

学校内で日本人学生と
交流できない
→1,465人

留学生の数は増加傾向にあるが、
日常生活において問題も抱えている！

一方で...

約72%の留学生が
宇宿地域への交通の便が良い
大学に通っている

遠方の大学
28%

その他近隣大学
1%

鹿児島国際大学
20%

鹿児島大学
51%

県内の留学生が通う大学
(令和3年5月1日時点)

出典：かごしまの国際交流



○調査によって分かった課題

①高齢者の増加と孤立化

②留学生の増加と苦勞

③商店街には強みもあるが空きテナントもある



○解決案（政策）

高齢者の孤立化と留学生の悩みを解決し、
宇宿商店街地域との関わりを強くする

政策

超スキ！宇宿で作るひとくち ～まち×ひと 交流の輪を広げよう～

内容

- ・ 商店街の空きテナントを活用して、料理を通して孤立化する高齢者や悩みを抱える留学生の交流できる場を作る

目的

- ・ 交流の機会を作り、住民同士や周辺地域との関係強化を目指す
- ・ 宇宿商店街の空き店舗を活用し、同時に商店街のさらなる活性化も図る

参加者

- ・ 高齢者、留学生、商店街、大学生、行政

① 交流の場を作り、そこで活動を行う

商店街

- ・ 場所の提供
- ・ 地域住民との関係の強化

大学生

- ・ 活動の運営
- ・ 料理の補助

交流

留学生

高齢者

取り組みをきっかけに、商店街で既に行われている様々なイベントにも参加してもらう

学生(ゼミ・サークル)が参加するメリット

- ・ 高齢者や外国人との交流の機会が得られる
- ・ ゼミやサークルに留学生がいれば、活動に参加する留学生と悩みを共有、助け合うことができる

この交流が

- ・ 高齢者の安否確認になる
- ・ 留学生の悩み改善につながる
- ・ 文化の交流も期待される

② 空きテナントを活用して商店街を活性化

宇宿商店街の空きテナントを行政が借りて必要最小限
リノベーションを行い、そこを活動のために貸し出す



行政が借り上げるならクレームは入らないからという
理由で了承してもらう

開催場所を宇宿商店街にして商店街の活性化を促し、
リノベーションした会場を有効に活用する



交通の便の良さを活かすことで、
参加者を広く確保することができる

③料理を通して文化を共有

料理は基本的に高齢者と留学生で作る



高齢者が留学生に対して日本料理を教えたり、留学生が
高齢者に対して郷土料理を教えるなどして交流を図る

鹿児島地域の特産品を商店街で取り寄せ、その食材を
含めた料理に必要な食材を商店街で買ってもらう



鹿児島地域の特産品や商店街の活性化につながる



○見込まれる効果

参加者

(高齢者、留学生、
学生)

- 孤立化の防止や悩みの解決
- 多様な交流の促進



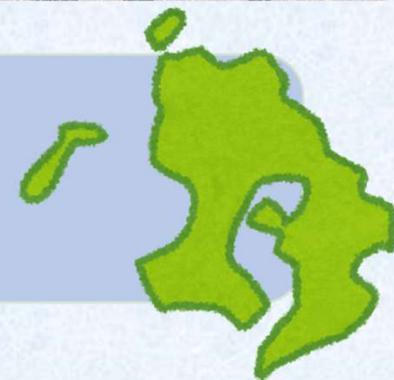
商店街

- 参加者や周辺地域との関係強化
- 空きテナントの活用
- 買い物の促進による商店街の活性化



行政

- 地域住民の問題を解決
- 地域特性を生かした交流の推進



○広報の方法

①イオンで広告を出してもらう

宇宿商店街にはイオンモール鹿児島との交流があり、お互いがイベントの際などに広告を出し合っている

→この交流を活かしてイオンで広告を出してもらうことで、普段SNSなどを見ない人（一部の高齢者や外国人）にも宣伝をする

②携帯電話に情報を配信する

宇宿商店街では、高齢者に携帯電話を配布して使い方を教え、その携帯電話の位置情報などで安否確認を行ったり、クーポンを配布してお店へ足を運んでもらったりする取り組みをしている

→この取り組みを活かして、高齢者が使う携帯電話に情報を配信する



○広報の方法

③SNSによる広告

- 宇宿商店街やその周辺に住む人だけでなく、そのほかの地域に住む若者などにも参加してもらえるように、多くの人の目につくSNSでも情報発信を行う

④高齢者・留学生にターゲットを絞る

- 高齢者でも見やすいように文字を大きくする
- 留学生のために、わかりやすく、優しい日本語にしたり、多言語に対応したりしている広告を作る



○役割

参加者

(高齢者、留学生、
学生)

- イベント内での文化の交流
- 参加者自身が交流の輪の一環となる
- 活動の運営(学生)

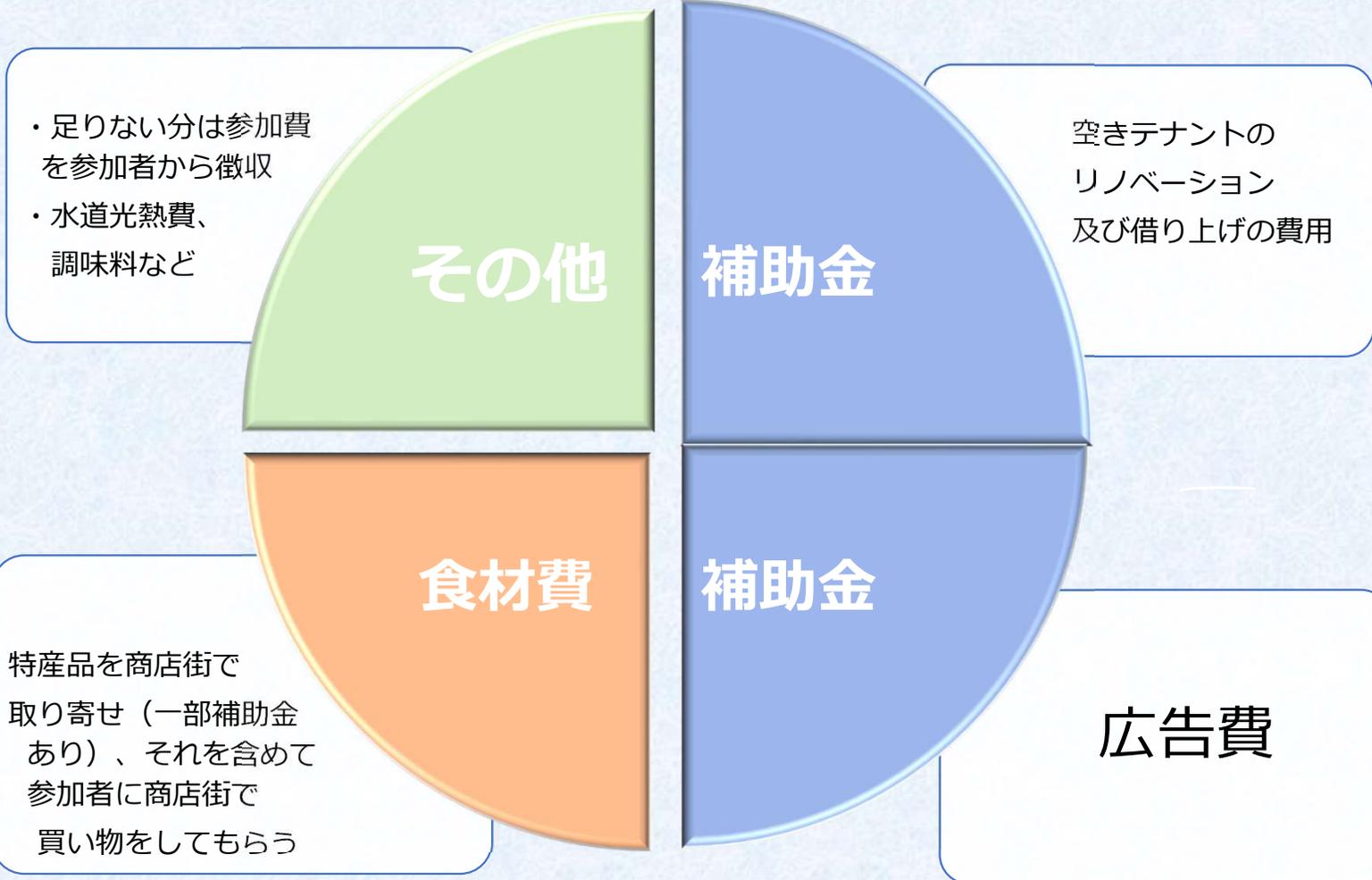
商店街

- イベント開催時の運営、商店街内の店舗による食材提供などのサポート
- テナント維持にかかる費用の一部負担
- 広報

行政

- 補助金によるテナントのリノベーション及び管理、維持
- 広報

○費用



- ・ 空きテナントのリノベーション及び借り上げ、広告費や一部食材費には「商店街にぎわい創出事業」の補助金を利用
- ・ 補助金や参加費で賄えない部分は商店街から支出

○将来展望



短期目標

様々な世代の交流により、それぞれが抱える問題を解消しながら文化の交流や相互理解を広げる

長期目標

住民同士や周辺地域との関係強化によって、緊急時や犯罪防止のための円滑なコミュニケーションを可能にする

最終目標

宇宿商店街の事例をモデルケースに、他地域へと取り組みを応用する

〇まとめ

- ①高齢者や留学生の交流の場を作る
- ②交流の広がりによって高齢者の孤立化を防ぎ、留学生の悩みを解決しながら文化の交流も行われる
- ③取り組みを通して、商店街や鹿児島特産品が活性化する
- ④この取り組みをモデルケースに、他地域での交流促進も図る

参考資料

- PDCA鹿児島宇宿商店街（R3年年度）

- 国勢調査-鹿児島県

<http://www.pref.kagoshima.jp/tokei/bunya/kokutyo/index.html>

- 高齢者等実態調査集計結果報告書-鹿児島県

<http://www.city.kagoshima.lg.jp/kenkofukushi/chouju/ikigaishien/kenko/fukushi/chiiki/hoken/documents/koureisyatouzittaityousa.pdf>

- 鹿児島労働局

https://jsite.mhlw.go.jp/kagoshimaroudoukyoku/jirei_toukei/toukei/kyujin_kyushoku/toukei05.html

- かごしまの国際交流（令和3年12月）本編-鹿児島県

<http://www.pref.kagoshima.jp/af09/kyoikubunka/kokusai/koryu/kagoshimanokokusai.html>

- 補助金 <https://www.pref.kagoshima.jp/af01/nigiwai.html>

- 法務省 <https://www.moj.go.jp/isa/content/001376208.pdf>

- 第五次鹿児島市総合計画後期基本計画 [5jisoukouki_hon.pdf \(kagoshima.lg.jp\)](#)

協力者

鹿児島まちの駅連絡協議会 事務局長 河井達志様